

「安全保障と防衛力に関する懇談会」（第 6 回会合）  
議事要旨

1 日 時：平成 30 年 12 月 5 日（水） 9：00 から約 90 分間

2 場 所：総理大臣官邸 3 F 南会議室

3 出席者：

・政府

谷内	正太郎	国家安全保障局長
高橋	清孝	内閣危機管理監
前田	哲	国家安全保障局次長
河野	克俊	統合幕僚長
鈴木	哲	外務省総合外交政策局長
槌道	明宏	防衛省防衛政策局長
森	美樹夫	内閣情報調査室次長

・有識者：

三村	明夫	新日鐵住金株式会社名誉会長（座長）
北岡	伸一	東京大学名誉教授・独立行政法人国際協力機構理事長（座長代理）
青井	千由紀	東京大学大学院教授
岩崎	茂	A N A ホールディングス株式会社常勤顧問（前統合幕僚長）
加藤	良三	元駐米大使
黒江	哲郎	三井住友海上火災保険株式会社顧問・国家安全保障参与（元防衛事務次官）
坂元	一哉	大阪大学大学院教授
土屋	大洋	慶應義塾大学大学院教授
三浦	瑠麗	東京大学講師

4 議事概要

（1）三村座長から冒頭挨拶の中で、①来週に控える最終回に向けて議論を収れんさせていきたい、②新たな大綱の中身を固めるための詰めの議論を行いたいといった旨の発言があった。

（２）前田国家安全保障局次長から「平成３１年度以降に係る防衛計画の大綱 要素（案）」（配布資料：資料）について説明した。

## ５ 意見概要

委員から概要以下の発言があった。

### 【我が国の防衛の基本方針に関する発言】

- 防衛力の持続性・強靱性強化が肝。
- 事態に際しては一義的に自ら責任を負って最後まで戦い続けるといふ、主権国家として当たり前の自覚を持つことが重要。
- グレーゾーン事態へ十分に対応するためには、あらゆる段階において常に柔軟に活動することが必要。
- 新たな大綱の下での取組について、政府全体としての取組を含めしっかりと評価するなど、いわゆる PDCA が重要。
- 日本にとっては安定した国際環境が必要であり、そのために ODA を拡充し、戦略的に活用することが重要。
- 国際協力については、民主主義諸国との連携強化の観点も含め日本の国益とのつながりをしっかりと説明することが重要。
- PKO については、我が国が得意とする分野で積極的に貢献することが重要。

### 【防衛構想・防衛力の考え方と名称に関する発言】

- 統合や総合、領域横断といった要素を含むことが考えられる。
- 従来とは違う、新たな領域が含まれていることを強調したものとすることも一案。
- 重要なのは名称ではなく中身だが、レジリエントでサステナブルであるという意味を含めるべき。

【防衛力強化に当たっての優先事項に関する発言】

- 予算の優先順位を考えるに当たって、後方分野の重要性をしっかりと考慮することが必要。
- 防衛大綱の長期的な方針を見据えた装備の体系とすることが重要。
- サイバーの世界では、事前の情報収集もしっかりと行って対応することが重要。
- 自衛隊の中で一番大事なのは人であり、まさにそれ自体が資産、財産。また、持続性の観点からも重要性を強調するべき。
- 自衛官の再就職支援もしっかりとした体制で行うことが重要。
- 装備品の開発を決めてから部隊で戦力化するまでの期間を短くするなど、安全保障環境の変化のスピード感に対応した取組が必要。
- 防衛産業を含む産業基盤の強化について、持続的な防衛力の維持という観点からも極めて重要。例えば防衛装備移転三原則の運用に係る工夫等も重要。
- 政府全体としての情報の集約や情報保全、技術情報の管理も重要。

【防衛力を支える要素に関する発言】

- 教育機関等における安全保障教育の推進も重要。

(以上)